

当面の技術対策（畜産編）

令和5年6月15日

発行：ゆとりみらい21農業推進協議会指導部

本年の牧草は、平年並みに生育しており、チモシーは平年より2日早く出穂を迎えています。既に収穫作業が始まっておりますが、良質な粗飼料確保のため、生育状況に応じた収穫作業を行ってください。

1. 細断サイレージ調整上の注意点

天候により原料草が乾きすぎた場合や刈り遅れてしまった場合は、踏圧がかかりにくくなります。その場合は、切断長を10mm～12mm程度に調節しましょう。

また、原料草は薄く広げ、入念な踏圧を心がけましょう。

2. 条件に合わせた添加剤の活用

- (1) 乳酸菌：乳酸菌が働きやすい環境を整えるため、原料草は予乾して水分70%前後に調節しましょう。
- (2) ギ酸：天候が優れず収穫せざるを得ない場合など、原料草の水分が75%以上の場合は、ギ酸を選択しpHを下げ、不良発酵を抑制させることを推奨します。原料草を搾汁し、pH試験紙やpHメーターでpH4.0以下を確認し、添加量を調整しましょう。

3. 二番草の収量確保に向けて

二番草の分げつ・生育を促すため、チモシー主体草地では1番草刈取後10日目頃までを目安に早めに追肥を行きましょう。

ただし、スラリーを散布する際は、新葉へのダメージを防ぐため刈取後すぐに散布を行きましょう（来年の一番草の分げつを促す意味もあります）。

牧草収穫時期とサイレージ用とうもろこしの除草剤散布作業等、複数の作業が重なる時期です。

また、日中の気温も上昇しています。作業時、熱中症対策も怠らずに農作業事故には十分に気をつけてください！